

聖書 エレミヤ書 36:1~10 旧約(新共同訳)p1245

1 ユダの王、ヨシヤの子ヨヤキムの第四年に、次の言葉が主からエレミヤに臨んだ。2「巻物を取り、わたしがヨシヤの時代から今日に至るまで、イスラエルとユダ、および諸国について、あなたに語ってきた言葉を残らず書き記しなさい。3 ユダの家は、わたしがくだそうと考えているすべての災いを聞いて、それぞれ悪の道から立ち帰るかもしれない。そうすれば、わたしは彼らの罪と咎を赦す。」

4 エレミヤはネリヤの子バルクを呼び寄せた。バルクはエレミヤの口述に従って、主が語られた言葉をすべて巻物に書き記した。5 エレミヤはバルクに命じた。「わたしは主の神殿に入ることを禁じられている。6 お前は断食の日に行って、わたしが口述したとおりに書き記したこの巻物から主の言葉を読み、神殿に集まつた人々に聞かせなさい。また、ユダの町々から上つて来るすべての人々にも読み聞かせなさい。7 この民に向かって告げられた主の怒りと憤りが大きいことを知って、人々が主に憐れみを乞い、それぞれ悪の道から立ち帰るかもしれない。」8 そこで、ネリヤの子バルクは、預言者エレミヤが命じたとおり、巻物に記された主の言葉を主の神殿で読んだ。

9 ユダの王、ヨシヤの子ヨヤキムの治世の第五年九月に、エルサレムの全市民およびユダの町々からエルサレムに上つて来るすべての人々に、主の前で断食をする布告が出された。10 そのとき、バルクは主の神殿で巻物に記されたエレミヤの言葉を読んだ。彼は書記官、シャファンの子ゲマルヤの部屋からすべての人々に読み聞かせたのであるが、それは主の神殿の上の前庭にあり、新しい門の入り口の傍らにあった。

賛美 243 「闇は深まり」

Die Nacht ist vorgedrungen
詞: Jochen Klepper, 1903-1942

DIE NACHT IST VORGEDRÜNGEN
曲: Johannes Petzold, 1912-1985

1 間は深まり 夜あけは近し。
あけの明星 輝くを見よ。
夜ごとに嘆き、悲しむ者に、
よろこびを告ぐる 朝は近し。

2 おさな子となり 僕となりて
み神みずから この世にくだる。
重荷うもの かしらを上げよ、
信ずるものはみな 救いを受けん。

3 間は去りゆく。目さめて走れ、
救い秘めたる あの馬小屋へ。
恵みの光 照り輝きて
悩み悲しみは もはやあらず。

4 間の中にも 主は歩み入り、
かけがえのない われらの世界
死の支配より とはな放ちたもう。
来たらしめたまえ 主よ、み国を。

説教 「消えることのない言葉」

賛美 241 「来たりたまえわれらの主よ」

○ Dieu du clemens
詞: Jacques Candeau, 20世紀

SWISS NOEL
曲: スイス民謡

1 きたりたまえわれらの主よ、主をまち
2 なげきの地は主のあいうけさばうのよろこび
3 ひびけよ、天に、あまねく地に、よろこび

つづけるたみに。めぐみの主よ、いま
▶ ひかりはのぼる。われらのすくいの▶
あふれるしらせ。てんしのさんびに

くだりここの世のくらきをやぶ
▶ ためにしもべのすがたをとり
こたえうたえ、つからしものの▶

(はじめに戻りへで終わる)

り、とわのひかりあたえたまえ。
▶ て、まぶねのなかねむるみよよ。
は、主をたたかねいわいのうた。

1 来たりたまえわれらの主よ、
主を待ち続ける民に。
▶ て、この世の暗きをやぶり、
永遠の光与えたまえ。
来たりたまえわれらの主よ、
主を待ち続ける民に。

2 喚きの地は主の愛受け
希望の光はのぼる。
われらの救いのために
しもべの姿をとりて、
まぶねの中眠るみ子よ。
▶ 喚きの地は主の愛受け
希望の光はのぼる。

3 韶けよ、天に、あまねく地に、
喜びあふれる知らせ。
天使の贊美にこたえ
うたえ、つくられし者は、
主をたたえる祝いの歌。
▶ 韶けよ、天に、あまねく地に、
喜びあふれる知らせ。

派遣

司式者

主は言われます。

「わたしは誰を遣わすべきか。」

会衆

わたしがここにあります。

わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン。アーメン。アーメン。

後奏 「来たりたまえわれらの主よ」 (C. フランク)

司式 要田 悟史
説教 向井 希夫牧師
奏楽 大代 恵

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。